



平成 29 年度 第 1 回グローバル講演会が行われました

講演者 京都大学東南アジア研究所・総合地球環境学研究所

教授 水野広祐先生

演題 「世界は君を待っている」

～アジアからの招待～

水野広祐 教授 プロフィール

大学 1 年の夏休み時にインドネシアに行く機会をもち、その混沌と熱気が入り交じった社会に魅了される。大学では、「開発とは」「貧困とは」「発展するアジアの特色とは」等考え、開発経済学や低開発国発展論を学ぶ。学部卒業後、アジア経済研究所でインドネシア経済研究に従事する。1984-1986 年の間の 2 年半は、ボゴール農業大学開発研究センター研究員となる。

1996 年に京都大学東南アジア研究センターへ。

2008 年からは、マーガリンやアイスクリームの原料になるパームオイル製造のためのアブラヤシの栽培や、コピー用紙やティッシュペーパーの原料になるパルプ用材のプランテーション造林の結果、荒廃したスマトラ島の泥炭地において調査を実施。火災が頻発し地域住民の健康や地球温暖化にも甚大な影響を及ぼすその荒廃をどのように食い止め、修復できるのかを、地域住民等と一緒に考え、修復のための行動を行っている。



講演会のようす

4 月 24 日の 7 限目に今年度の第 1 回グローバル講演会が行われました。講演会でまず先生は日本の現状と今後の問題についてお話しされました。かつては全世界の GDP の 18% を日本が担っていたが、現在は高齢化の進展にともない労働力が減少し、これが日本の生産力の減少につながっているということ。またそのような状況では投資に見合うだけの発展が見込まれず、国内だけの視点では行き詰まりが見られるということでした。

しかし、アジア各地域におけるさまざまな問題は、逆に発展への機会であるということ。私たちがその解決に関わることは、アジア全体で発展を目指すための大きなチャンスとなる。そのため先生は生徒に対して、「多様な世界と積極的に関わっていきこう」と話されました。また「多様な世界と関わることは視野を広げ、真の学びに繋がる、みなさん積極的に海外へ出ましょう」と力強く訴えかけられました。

次に、先生が現在行っているインドネシアのスマトラ島に見られる泥炭地の調査・研究活動についてお話がありました。泥炭地において起こる火災の防止や、有効利用について地域住民等と一緒に考え、修復のために精力的に活動されている様子を話されました。われわれの日常生活で使用するマーガリンや天ぷら油が、泥炭地火災の遠因となり、それが地球温暖化にもつながる。まさに、この問題はアジア全体の発展につながる問題で、日本とアジアの国々との相互発展にもつながる格好の例と思われました。「海外で働き、国際的に貢献できる人物として活躍してほしい」という講演に込められた思いが生徒に伝わっていたことが、生徒の感想からも分かります。



生徒の感想

「アジアの国に目を向け、自分は何者なのかを探し続けることが大切だと思いました。」

「問題を解決するために自分たちが動かなければいけないと思った。」

「留学したい気持ちが大きくなりました。」

「日本はアジアの国々と協力やネットワークを広げていかなければいけないと思った。」

「自分も将来はアジアなどに貢献できるような国際的な人間になりたいと思った。」

「海外で活躍するためには、生きていくためのたくましさや能力をつけないとダメなんだと思いました。」

「未来のアジアのためにも、今のうちから海外についての知識を高めていきたいと思った。」

「将来は海外へ行き視野を広げ、世界のことをもっと知ろうと思いました。そのために今からしっかり英語を勉強したいと思いました。」

「“頑張らないといけないシチュエーションに自分を置く”という言葉が心に残りました。」

「他国のことを知ることによって、視野を広げることが日本の発展につながるんだと思いました。」

「将来留学するために日本のことについても、もっと理解し勉強する必要がある。」

「国が違えば文化が違い、人も異なる。その違いを受け入れ、より深く知ろうとする姿勢が今後より大切になっていく時代なのだろうなと思いました。」

「外国では現地の事情や判断基準で行動したり、現地の人と協力関係を展開したりすることが大切なんだと思いました。」

「小さなことでも近くの国々に貢献できるといいと思いました。他国とともに日本はこれから発展していけると思います。」



【生徒会長によるお礼の言葉】

